

く、メカニズムの美しさに魅了されるばかりです。

玉尾先生のお言葉をお借りすると、大きな発見は11年周期で訪れたとのことでした。有機EL材料としての実用化につながった1994年のシロールの合成法の発見、そして2005年ごろに開発され、理化学研究所に移られて大きく発展された立体保護基Rind基による低配位元素種の化学など、実に多彩な研究を展開されました。これらの先駆的な発見がなされたのは、まさに玉尾先生の元素の本質への深い洞察によるものでしょう。のちに玉尾先生は、元来個別的な元素の化学を大局的に捉えることの重要性を示した「元素科学」の概念を提唱され、「京都大学COE元素科学研究拠点」などのプロジェクトを推進されました。さらに、2010年からはJST CREST研究「元素戦略を基軸とする物質・材料の革新的機能の創出」領域の研究統括を務められ、「元素科学」の重要性を社会に示され、当該分野を強力に牽引されました。

また、これらの研究プロジェクトだけではなく、玉尾先生は純粋に元素が好きで、周期表が大好きな先生でもあります。筆者が玉尾先生の研究室に入っていたときには、玉尾先生の誕生日にいろんな周期表を集めてきてプレゼントしたりもしていました。そして、玉尾先生のあの周期表好きから生まれたのが「一家に1枚周期表」です。見ているだけで楽しい周期表があれば、もっと理科教育が進むはずだとの信念からご自身でチームをつくられ、あの美しい周期表をつくり上げられました。若い世代の読者の皆さんには、周期表の先生としてもなじみ深い先生かと思います。

玉尾先生は、常にアイデアいっぱいの先生です。今でも高校生向けの講演会でご一緒させていただくと、元素科学研究にまつわる「小ネタ」満載の講演を楽しそうにされ、高校生の聴衆をおおいに魅了されています。そのお姿は昔から

ずっと変わらず、筆者が学生時代も、玉尾先生と毎日ディスカッションするのがたまたま楽しく、うれしい時間でした。そんな恩師の先生の文化勲章のご受章は、弟子の一人としてとても誇らしい限りです。玉尾先生のご偉業を讃え、心よりお祝い申し上げます。

名古屋大学
トランスフォーマティブ生命分子研究所
山口茂弘

医生物学の世界に パラダイムシフトをもたらした 谷口維紹先生

令和5年11月3日、谷口維紹先生（東京大学医学部名誉教授・先端科学技術研究センターフェロー）が栄えある文化勲章を受章されました。



谷口維紹 博士

先生はチューリッヒ大学大学院（チャールズ・ワイスマン研究室）で学位を取得されたのち、がん研究会がん研究所生化学部長、大阪大学細胞工学センター教授を経て1995年に東京大学医学系研究科・医学部教授に就任されました。先生は免疫学研究・がん研究において多くの重要な発見をされ、特に免疫調節分子であるサイトカインに関して、ウイルスの増殖を抑制するインターフェロン-β (IFN-β)、および免疫応答の中心を担うリンパ球の増殖をつかさどるインターロイキン2 (IL-2) のヒト遺伝子を単離しその分子構造を解明し、サイトカインを生物学的製剤として実用化する道を切り拓かれました。現在これらのサイトカインは、がんの免疫療法や難治性ウイルス感染症に使用されています。その後も先生はインターフェロン制御因子 (IRF) ファミリーの発見とその機能解明を進め、生命現象の根幹にかかわる

サイトカインシグナル伝達機構の研究を世界的に牽引し、医学・生物学の幅広い分野に大きな影響を与え続けておられます。

先生は、研究だけでなく、人材育成にも大きな熱意をもって取り組んでこられました。厳しいなかにも優しさを兼ね備えた先生の指導により、多くの大学教授や研究者が育成され、教育・研究・臨床の分野で躍進しています。近くで先生の教えを受けてきた者から見て、真理の探究への「情熱」こそが、先生の研究・教育活動の原動力であったと思います。一つの実験結果について何時間も、時には数日にわたり、スタッフや大学院生と熱い議論を繰り広げられることも多々ありました。結果の冷徹な分析を重視するだけでなく、研究を広く俯瞰して未来と夢を語り、学部学生や大学院生に対しても情熱を伝えることで研究への意欲をひき出そうとされてきました。

また、先生は芸術、特に音楽をこよなく愛され、各地でのコンサートに足繁く通われるとともに、世界的に著名なチェリストであるヨーヨー・マトも長年にわたって親交を深められ、医学と音楽、そして科学と芸術の融合を通じて学問への新たな視点を導入しようと現在も精力的に取り組まれています。

このように、先生は独自の視点から医生物学の世界にパラダイムシフトをもたらただけでなく、人材育成や科学政策立案に取組み科学者の社会貢献を実践し、後に続く研究者を鼓舞し夢と希望を与えてきました。このような希有な研究者の指導を受け、その姿を間近で見ることができたことは、われわれにとってこのうえなく貴重な経験であり一生の宝と言っても過言ではありません。

この度の谷口先生のご受章を心からお喜び申し上げますとともに、先生のご健康とますますのご活躍を祈念いたします。

東京大学先端科学技術研究センター 柳井秀元
東京大学大学院医学系研究科 高柳 広